

PROPOSAL

一歩進んだ社会教育士のための協学・共創コミュニティ 社会教育スタートアップラボ

株式会社サステナブルタウン
社会教育スタートアップラボ

代表取締役 萩元直樹
石田智彦 大関朋子 佐伯加寿美
瀬山岬 富田めぐみ 福田花梨

社会教育を愛するすべての人へ

プロフェッショナルな社会教育を志す社会教育主事有資格者・社会教育士の皆さん、そして、取得を目指す方々は、社会に向き合うロールモデルです。主体性・学び合いを育む社会教育は、まちづくりにおいて本来最も可能性を秘めている分野だと考えます。実際に、まちづくり活動のほとんどは社会教育活動とも捉えられます。社会教育という意識の有無に関係なく、社会教育活動が好きな人が大勢いることは明らかです。しかし、これまでの社会教育への関心や期待は決して高いとは言えません。行政内のポジションはどうでしょうか？ 優れた活動を展開している実践者からの認識はどうでしょうか？ ビ

ジネスからの注目とは？ 一般社会からの評価は？ 市民の代表である議員からの質問は？

社会教育の業界にも新世代が台頭してきています。老舗の社会教育という看板を掲げた主義主張も大切ですが、社会教育のリデザインが必要です。

2020年、社会教育士制度が誕生しました。この流れがラストチャンスと捉えます。実際に、多様な立場や分野の取得者が年々増え、「社会教育士を取得したい」という声も多数聞かれています。このタイミングです。社会教育自体の新たなスタートアップが必要なのは今です。なぜなら、社会教育士への期待と懸念があるからです。

受講機関の定員以上のニーズがあり、



社会教育 Start Up Lab

社会教育士・主事の独自性・専門性を高め合う実践者コミュニティ。さまざまな立場で社会教育を実践している実践者が産官学民のそれぞれの現場において秀でて活躍できるようになるため、社会教育を世界一楽しむために集う場となっている。

情報も不足している中、「はじめよう、社会教育」というオンラインコミュニティが立ち上がり、たくさんの受講希望者がネットワークをつくって有意義な情報交換をし合っています。こうして、たくさんの社会教育士が増えていくこと自体は大変喜ばしいことです。一人一人の実践が膨大なアウトカムを生み出し、全国のまちづくりへのインパクトが感じられるようになるのも近い未来でしょう。

一方、社会教育士の講習を受けただけで活躍するには、まだまだ多くの課題があるという懸念があります。

社会教育士の難しさ

「教師は、自分自身を本当に教育し、

陶冶すべくみずから努力している間だけ、他人を本当に教育したり陶冶することができると、ドイツの教育学者アドルフ・ディースターヴェーク(1790-1866)は『ドイツの教師に寄せる教授指針』に記しました。教育者として普遍的な姿勢です。私も社会教育主事有資格者ですが、その講習で学び得た量より、その後学び得てきた量の方が遥かに多いです。

社会教育士を名乗りスタートラインに立った後、社会教育士として活躍するにはまだまだ多くの課題があるという事実に対して、専門的で継続的に学び合える場がないという問題があります。

さらにいえば、①ファシリテーション能力、②プレゼンテーション能力、③コーディネート能力が、講習を受けるだけで十分身につくことはないという問題です。あるいは、十分スキルアップしたと仮定して、そもそも社会教育の基礎知識と3つの能力だけで十分に活躍できるのでしょうか？

つまり、社会教育士として身につけるべき最たるものは、「学び続ける姿勢」そして、実践して躓いて勉強して「学びほぐし続けるマインド」です。

それには志を共にする仲間が必要で、私の経験上、社会教育を学ぶ機会は大きく2種類に分かれます。それは、社会教育論と社会教育持論です。しかし、プロフェッショナルな社会教育人財にとって本当に必要なのは、社会教育論と持論を高度に学びほぐし合える学習機会です。

その環境が社会教育スタートアップラボ(通称「スタラボ」)です。

スタラボの目指す社会

スタラボでは、社会教育士(主事)取得者が産官学民の現場において秀でて活躍できるようにするため、社会教育業界の外側の「社会」を意識した実践的な内容に特化しています。

社会教育士の3つのスキルに加えて、④コミュニティマネジメント能力、⑤プロジェクトマネジメント能力、⑥事業企画・事業構想能力を含めて、6つの柱を専門的に習得し活かしていくことを目指しています。また、その6つだけでも不十分です。社会教育活動の中には様々なイベントが存在しています。それを「ローカルイベント」として体系付け、メンバーの抱える問題・

課題を確認しながら、必要に応じて情報提供し、対話や活動を通して学び合っています。

行政、議会、財団法人、民間企業、NPO法人、個人事業主などで仕事をしている方、地域活動をされている方がジョインされています。私たちは、社会教育士が高度な専門性を持つ様々な分野にコミットすることでイノベーションを起こすことができると考えています。広く社会は、社会教育について未知な状態だからです。そういった意識を持つ社会教育士の仲間が集まれば、大きな力を生み出すことができると信じています。

社会教育の社会性を高めていくことがミッションです。新時代の社会教育を共に創っていく仲間を絶えず募集しています。また、スタラボの生み出す価値観に共感し、支援・応援してください。

社会教育Start Up Labは、毎週水曜日21時から22時30分にオンライン開催。月2回のセミナー会、対話会、懇親会があり、いつでも何度でも体験フリーです。自分のペースや関心で参加できます。メンバー同士との相談や連携もできます。今年度から定期的にイベントも開催予定です。

←後半はスタラボメンバーの座談会です。



スタラボにジョインして…

瀬山 社会教育の現場で指定管理という立場で働いています。最初にスタラボの話を伺ったとき、毎週って聞いて「おおっ…！」って焦りました。21時〜22時半って聞いて、「遅っ！」「長っ！」って思ったんです(笑) 正直なところ。でも、毎回、皆さんとお話ししたり学んだりしていく中で、「なるほど！これは毎週楽しみかもしれない」と変わってきたのが事実です。今は長いとは思わないですし、この時間で良かったと思うし、毎週でちょうど心地よい感じというのがあります。

石田 たしかに(笑) でも、毎週参加しなくても、もちろん大丈夫ですよ。

瀬山 なぜ「スタラボが楽しみ」と思うようになったのかな？というと、主体的にこの場に関われるという思いが私の中にあって。自分自身が何か喋ることもできるし、提案することもできるし、セミナー会でも興味関心あることを発表できたりすることを含めて、そういう場所なんだろうなと。自分たちで作っていつている感覚がありますし、これから何かできるかもという期待感がすごくあります。セミナー回も毎回とても興味深いです。

富田 指定管理者として生涯学習セン

ターに勤務しています。スタラボを知ったのは、埼玉県の社会教育人材プラットフォームの交流会イベントに参加した際、隣のブースだったんです。石田さんとも大東文化大学の社会教育士講習の同期ですね。スタラボが大切にしている「アンラーニング」に興味を持ってセミナー会に参加しました。「これだなあ」と共感や納得を得ました。

石田 スタラボの最初の扉を開いた大関さん、動機は何だったのですか？

大関 動機は直感としか言いようがないのですが、目の前に「アッ来たっ！」「入んなきゃ！」ってそんな感じで響きました。社会教育士の養成課程を受け、社会教育ってこんな凄いつて感動でいっぱいになっていたところに、目の前にキラキラしたものが現れたみたいな、ワクワクにワクワクが乗った感じで(笑)

石田 ジョインされて約1年ですね。

大関 オセロがひっくり返るように、社会教育っていう色がバァーってカラフルになる。そんな感じがした1年でした。自分の動きの中でもそうですし、土台の部分がしつかり、豊かに育まれているような感じがしています。

石田 福田さんは、前回、体験参加さ

れていかがでしたか？

福田 紹介を受けて、はじめて参加させてもらいました。それこそ知らないかったことや、頭では分かっているけど、実際に言葉で言われたときにハッとするような内容を聞けてすごく良かったなと思っています。終わってみて、すぐに実践や提案できそうな感じがあったので、すごいワクワクしてた感覚が最後残っていました！

石田 まずは体験してみても、自分の直感に間違いはなかったですか。

福田 ないです。先週終わった後、「この久々のワクワク感はなんだろう？」みたいな感覚だったので、こういうのが続いていくと、すごく楽しみです。

セミナー会と対話会と懇親会

石田 いろんなスタイルの学びの場があるスタラボですけど、「それぞれの回の良さ」はどう感じていますか？

佐伯 対話会はみんなで相談し合える機会にもなるし、みんなが他にどんな興味や得意なことがあるか新しい発見があります。懇親会は人柄を知れる良い機会にもなっています。セミナー回は、ぜひ、こういうことを公民館でももつ

と教えてもらいたいなあっていつも思
って聞いています。以前、公民館で働
いていた頃には、社会教育主事の集ま
りなどに積極的に出ていたんですけど、
公民館を辞めて、今、議員という立場
になり教育行政から抜けたときに、み
んな同じ立場の人たちなのに、私だけ
立場が違うので、なんとなく行きづら
いというのがちよつとあったんですね。
でも、どこかで勉強したくてスタラボ
に入りました。ここには社会教育行政
だけではなくいろんな分野の方がいる
ので、すごく刺激的です。社会教育の
市政における重要性もみなさんにブラ
ッシュアップしていただいて議会で質
問をし、市に訴えることができました。

石田 大関さんはPTA活動をはじめ
様々な活動をされている中で、スタラボ
の学びが活かされたことがありますか？
大関 今までは経験に基づく話が多か
ったですが、説得力が増してきた感じが
します。皆さんに届く速度とか奥行が明
らかに変わってきていて。さらに、みん
な自分が社会教育に携わっているとい
うことに気づくと、とても喜んでくれる
し、より主体的になることが分かりまし
た。それも私の中では社会のおセロが一
つずつひっくり返っているような感覚が
していて。称号を取っただけで終わって
いたら、ここにはたどり着いていなかっ
ただろうし、そういう気持ちにはなっ
ていなかったかもしれない。スタラボに
入って、毎回たくさんのかを学び、私
は、すぐに実践で活かしているとい
う感じです。スタラボの各回どれも好き
なんですけど、セミナー回は唸る（笑）

石田 それはどういう唸り？（笑）

大関 色々な情報提供だったり、新し
い発見があったり、自分の中で「そう
いうことだったんだ！」みたいな唸り
がある感じがすかね。萩元さんにも唸
りますし、多方面から飛んでくるメン
バーの皆さんの気づきについても。

石田 お互いの持っている経験や考え、
スキルをいつも組み合わせるより良い学
び合いができるのが、スタラボならでは
ないのかと、私も思っています。

スタラボでやりたいこと

富田 やっぱりコラボイベントがすごい
楽しみです。皆さんの素直な気持ちをリ
アルミーティングみたいな形でできれ
ば嬉しいなと思います。メンバーの活動
や講演とかも見にいきたくらいです。

佐伯 やりたいことは、教育行政以外に
社会教育士を増やすこと。「社会教育や
社会教育士はこんなにすごいんだよ」っ
ていうことをたくさん発信して、楽しく
てワクワクして面白いんだっていう感覚
をみんなと分かち合えたらと思います。

瀬山 社会にどうアプローチしていく
か、スタラボでそれができたら素敵だ
なあとと思います。

福田 スタラボ主催の何かができれば
いいなと思っています。具体的なイベン
トとかしつかりとしたイメージはない
んですけど、いろんな立場で社会
教育士が集まってこれだけ定期的に会
をやっているなんて、私はスタラボぐ
らしいしか知らないの、その強みを活
かして。いろんな角度から意見が出て
きて、楽しそうだなあって想像します。

石田 ぜひ、今年イベントを主催しまし
よう。このメンバーでイベントを作ると
ちよつと今までは色が違うイベントに
なると思います。最近、日々、仲間が
増えていくみたいな感じで良いですね。
大関 そうですね。可能性がいっぱい
あるということを毎回確信して、スタ
ラボに参加してやっぱり良かったって
思います。 おわり